

八丁蔵通り 伝統的な地場産業 が息づく町並み



平成18年(2006)NHK連続テレビ小説「純情まろり」の舞台に



八丁蔵通り



登録有形文化財



八帖往還通り(東海道)



岡崎城から西へ八丁(約870m)の距離にある八帖町(旧八丁村)は、「八丁味噌」の産地として知られ、矢作川の舟運と東海道が交わる水陸交通の要所であったことから、江戸時代には土場(船着き場)や塩座(塩の専売)が置かれ、舟運を利用して原料の大豆や塩を調達し、味噌の出荷が行われました。矢作川の良質な伏流水にも恵まれ、東海道を行き交う人々により「八丁味噌」の名は全国に広がりました。

現在も本市を代表する地場産業のひとつとして、また、郷土の味として老舗2社がその味を伝えています。

また、平成8年(1996)には、合資会社八丁味噌の本社事務所と蔵(史料館)が国の登録有形文化財に指定されるなど、建造物としてもその外観はとても重要な景観資産となっています。

味噌蔵などの黒壁や石垣が続く町並みの中で、ほのかにただよう味噌の香りに、今も続く伝統的な地場産業の風情を味わうことができます。

